



ぺんぎん組 にこにご通信 NO.7

～小さな虫さん見つけた！！～

R3.10.12

園庭で遊んでいるある日。S君がでんぐり山の上ですっとしゃがんで何かを見ていました。「何をしているのかな？」と思い、横に行ってみるとS君はエサを運んでいるアリをじっと見つめています。「アリさんがいたのか！何かもっているね」と保育教諭が声をかけてもずっと夢中で見ています。保育教諭とS君が何かをしていることに気がつき、近くにいたO君も、側に来て一緒にのぞき込みました。O君もアリを発見し、「あっ！あっ！」と発見に驚き、声にだしながら指さします。

蝶やトンボや大きな昆虫が飛んでいることに気付き、指さすことは今までにもありましたがアリのような小さく地面を歩く虫に気付いたのは、S君が初めてでした。小さな虫にも気付き、興味をもったという子どもの成長が嬉しく、他の子どもたちにも広げたいと思いました。そこで砂場玩具の棚からアリの観察がしやすいように寸胴を取って来てS君が見つけたアリを入れてみました。

でんぐり山を滑っていたらアリを発見！



本光寺で蜂の死骸を見つけてじ〜っ！！
なんだこれ？

アリちゃん…



寸胴にいれ、S君たちと見ているとそれまで周りで気づかず遊んでいた子たちも「何々？」というように寸胴の中をのぞき込みます。中にはアリの動きを15分ほどじっと見つめる子どももいましたよ。また、寸胴の中にあるアリを見た後、近くにアリを見つけ「おった。おった」と言いながらアリを何度も叩こうとしたり、足で踏もうとしたりする姿もありました。虫の命について少しずつ知らせていきたいと思いつつ、見つけた後の姿が1歳児らしい可愛い姿に感じました。

その日以降も園庭にでるとアリを探したり、散歩先でも同様な姿が見られるようになりました。そんな子どもたちと秋は沢山虫探しをして虫と触れ合っていきたいと思います。

誘導ロープをつかってお散歩行ってきます

園には誘導ロープがあります。誘導ロープとは一本のロープに等間隔ごとに丸い持ち手が付いていて、子どもたちはその部分を手で握り列になって歩くためのアイテムです。4月の頃からほとんどの子の歩行が安定していたため、全員で園内を移動する時は、誘導ロープを使いたいと思っていました。しかし、ぺんぎん組の保育室で全員誘導ロープにつかまり、「出発進行！」と部屋を出た瞬間に手を離し好きな所へ行ってしまうという日々…。つかまるということに慣れていないのかなと思い、フラフープを遊びの中で出してきて子どもたちがつかまり、保育者が引っ張って電車ごっこのようなことも楽しみました。しかし、誘導ロープにつかまり移動するということができませんでした。

ところが夏の遊びを終えた9月半ば、遊戯室へ行くために久しぶりに誘導ロープを使うと最後まで離さず移動できました。その日だけではなく、その後も誘導ロープを離すことなく移動できるようになり、「なぜ？」と思い、考えてみました。



誘導ロープ



よく思い返してみると最近の子どもたちは、誘う声掛けは、ありませんがアイコンタクトをして友だち同士で走ることを楽しんだり、同じ動きを真似て楽しんだりという姿がありました。

一人一人が好きな遊びを夢中で遊んでいた春から友だちと少し関わって遊ぶことを楽しむ姿も見られるようになった今。きっと子どもたちの中で保育者や友だちと呼吸を合わせ歩くということも心地よくなってきたのだなと感じました。



最近では散歩でも誘導ロープを使用しています。初めの頃は少人数ずつだったので今では全員で誘導ロープにつかまり、戸外をみんなで一緒に歩くことも楽しんでいますよ。



みんなで歩いて楽しいね♪